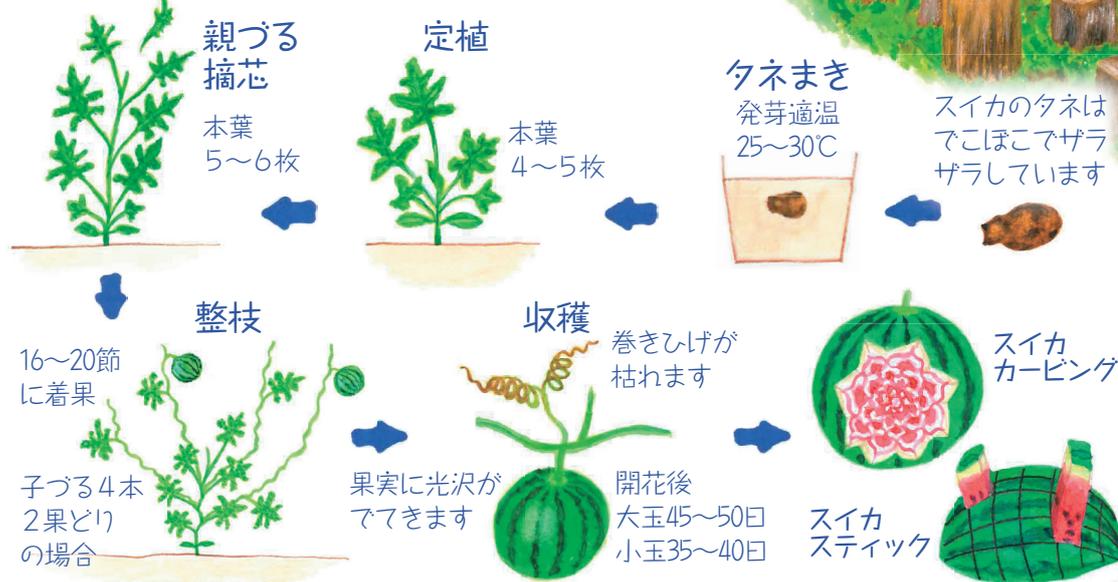




青い森の便り

～菜園のすすめ 17～



(有) 渋谷種苗店 (青森市)
しぶたに ふみこ
渋谷 扶美子
(文とイラスト)

青森市に生まれる。青森県農
業大学卒業後30年間種苗業にた
ずさわる。現在は専務として従
事。平成13年よりラジオ番組「畑
でグッツェ」に社長である夫
と共に出演中。近著に「レッツ
トライ あもりの家庭菜園」
(2013年、東奥日報社)がある。



全国には生徒数の減少により廃校となった校舎が多数あります。その跡地は今、宿泊施設、ギャラリー、カフェ、イベント会場などに生まれ変わっています。

青森県八戸市南郷にある旧増田小・中学校も、100年以上の歴史を終えて、新たなコミュニティの場「山の楽校」として開校しました。

木造の校舎は、干しりんご、布草履作りや、そば打ちなどの伝統継承の場となり、裏手の畑には200万本のひまわりが咲き誇ります。黄色に染まるひまわり畑、その後方に連なる森林、丸太の椅子、畑地に渡る小さな橋には畳が敷かれており、どこを切り取っても長閑な楽しい安息の地です。

ひまわりは大きな一つの花に見えますが、実際は多数の花が集まって一つの花を形成しています。多くの花が集まってできるひまわりと、多くの人が集まって伝統を紡ぐ楽校の組み合わせは、訪れる人に感動を与え、古きよき知恵を伝承するという新たな役割を担っています。

新しいといえば、野菜の中でも近年新たな楽しみ方を見いだされたものがあります。スイカは野菜や果物に装飾を施すカービングの素材として注目され、表面の緑色と黒の縞模様、皮の内側の白、内部の赤の4色のコントラストが美しく、ほかのものでは出せない持ち味があります。

スイカはカービングのような特別な技術を持たなくてもフルーツの盛り合わせの土台や器にするなど食べるにとどまらず、その特性を生かした利用法がたくさんあります。

また、おいしさが均等になる切り方や食べやすいスティックタイプの切り方も活用しながら、五感で味わうスイカの新しい利用法をぜひ体験してください。

栽培するうえでは、スイカは種類が豊富でサイズ、形状、表皮の色、縞の入り具合もさまざまなので品種選定は重要です。

畑で食べるシャリシャリしたジュースで甘いスイカは格別においしいですよ。

